

この人に聞く

内科医 瀬賀弘行さん

## 地域医療に生きる



### 略歴

- 1956年 村上市吉浦に生まれる
- 1975年 村上高校卒業
- 同年 東北大学理学部物理学科入学
- 1979年 同大学中退
- 1982年 新潟大学医学部入学
- 1988年 同大学卒業
- 同年 大学病院等に勤務
- 2005年 村上市吉浦に医院開業

編 集 部

今回は本誌に4回（112号～115号）にわたって掲載された「町医者日記」の著者・瀬賀弘行医師にご登場いただきました。

瀬賀さんは昨年、村上市の旧町人町の中心地、大町に私設図書館を建設しました。

大町文庫と称されるこの文庫には、高校時代の三人の恩師の蔵書9千冊が収蔵されています。

### 思い出の恩師と大町文庫

73年、本間桂先生が47才で村上高校へ英語の先生として、おいでになりました。

村上でお生まれになり、佐渡でお育ちになった先生は、敗戦の年の45年に新潟医科大学に入学されましたが、翌年には退学されて京都帝国大学の文学部英文科に進まれ、その後は故郷新潟県の県立高校の英語教師になりました。

先生が村上高校に赴任された時、私は2年生で、英文法を教えていただきました。

その授業は圧巻でした。たとえば教科書にbeforeについての例文が出てくると、何もご覧にならずに、その例文と同じ構文を持つ文を、ふたつほど追

加して板書され、それらの文の出典を説明されます。聖書、シエークスピア、モーム、ヘミングウェイなどでした。しかもその引用は、ほかの辞書や文法書からの孫引きではありませんでした。先生がそれまでにお読みになった原著のなから、ご自分で抜粋されたものです。

そんなところから、しばしば楽しい脱線がはじまったものでした。たとえば、こんな風に。

「新約ルカ伝、第13章24節、*sir, are only a few to be saved?*」の *be to* も、予定の *be to* ではなく。そこでキリストは答えます。*Strive to enter in by the narrow door*。力を尽くして狭き門より入れ。ジッドの小説にとられていますね」。

そこからアンドレ・ジットの『狭き門』の紹介、批評に移っていく。私たちは恍惚として聞き入りました。先生はドイツ語やフランス語にもご堪能で、ニーチェはドイツ語で、モーパッサンはフランス語でお読みになっています。

先生は稀代の読書家でいらっしやいました。

先生の晩年に、息子さんが久しぶりに村上に帰省されたとき、息子さんは、びっくりなさいました。七つ

ある部屋のうち、四つの部屋が蔵書で埋まっていたのです。先生ご夫妻は僅かな隙間で生活なさっていたわけです。

そのとき、私は息子さんから相談をうけました。「両親は高齢なので早晚、本を管理できなくなるでしょう。なんとかならないものでしょうか」と。

先生の知性やお人柄に深く関係したであろう蔵書ですから、私は、まとまった形で残せたらと思いました。そうすると同じ村上高校の私の恩師である八木三男先生の蔵書も気になりました。

八木三男先生は旧制長岡中学在学中に、新潟医科大学を中退なさったばかりの本間先生に教えをうけたことがあります。なにかの因縁を感じました。八木先生は、京都大学の文学部国史学科を卒業なさったあと、村上高校で日本史の教鞭を取られていらっしやいました。

先生は08年にお亡くなりになりましたが、晩年は私が先生を在宅のまま診療し、お看取りしました。

先生の書庫にも膨大な蔵書がねむっていました。

奥様に、蔵書の行く末をお尋ねしたら、「あなたがほしいのでしたら、あなたに差し上げます」とおっしや



写真・大町文庫

いました。

そうなる、村上高校での、もうお一人の私の恩師・大嶋久夫先生の蔵書も思い出しました。

大嶋先生は東北大学の文学部英文科を卒業され母校の村上高校に赴任されました。09年にお亡くなりになりましたが、奥様にお尋ねすると、「蔵書は、あなたに差し上げます」と、おっしゃってくださいました。

この3人の村上高校の恩師の蔵書を何とかして残したいと思いました。市役所や村上高校同窓会に相談しましたが、いずれもうまくいきませんでした。そんな

ことから私が文庫を立てて、そこに収蔵することを決意しました。しかし建物の建設費や維持費が膨大になります。そこで一階にはテナントを入れることにしました。

幸い私の高校時代の同級生の上村隆史

さんが、文庫候補地のとなりで老舗の鮮魚店「うおや」を経営していたので食堂として入ってもらいました。

三人の先生の蔵書は合わせると、およそ1万5千冊になりますが、大町文庫には空間の限界があつて、9千冊ほどしか収蔵できませんでした。

大町文庫の向かいにあった書店の空き店舗をお借りして、今は残りの図書も展示しています。

### 青春時代の挫折

私は村上市の吉浦に生まれました。目の前は海、背後には山が迫った自然豊かな土地ですが、近くには工場などの働く場所が少なく、男はほとんどが船乗りになる出稼ぎの村でした。

父は南水洋や北洋で鯨をとる捕鯨船に乗り組んでいました。ですから普段は母と姉と私の三人暮らしで、まるで母子家庭でした。父が捕鯨船に乗り組むと一年近く父の顔を見ることが出来ませんでした。

私は友だちと海や山で遊ぶ普通の子どもでした。

中学に入學すると「中一コース」という受験雑誌を買って読んでいましたが、そこに高校受験には「学年の数字＋1時間」の家庭学習が必要と出ていましたの

で、正直にその通りに勉強しました。成績は良く、地元の進学校の村上高校に進学しました。

ところが高校に入学してある種のカルチャー・ショックを受けました。

町の子どもたちは勉強以外にいろんな本を読んで知識が豊富でした。勉強以外の生活を楽しむことも知っていました。私は田舎の中学生だったので勉強のことは知りませんでした。ですからそのときはとても驚きました。友人や本間先生の影響でヘッセ、漱石、ドストエフスキーなどを読み始めました。

村上高校を卒業すると、東北大学の理学部物理学科に入学しました。

しかし、4年間ほとんど大学には行けませんでした。なぜそんなことになったのか、いまでも良くわかりません。

憧れて入ったはずなのに、物理学に興味を持つことができなくなっていました。ひどい花粉症になったのも、このときです。失恋もしました。

自分の望む恋が成就しないならば、もう死んだも同然などと考えました。

そんなことで私は二十代前後に大きな挫折を経験し

ましたが、22歳になったときに、このまま終わりたいはない、もう一度、原点に戻って、やり直してみようと決心して上京しました。

### 新聞配達と医学部入学

池袋で朝日新聞の配達をやりました。大変なこともありましたが、自分の働いた労働で報酬を手にする喜びを初めて知りました。

とても爽やかな体験でした。

朝日新聞が好きでしたので、朝日新聞を配達することに意味を感じていました。

2年間、新聞配達をしました。

81年の3月、やはり村上高校時代の恩師の吉田牧夫先生が、上京なさる機会がありました。私は先生に電話で呼び出されました。新宿センタービルの最上階のレストランでお会いしました。

先生は「いつまで新聞を配っているつもりだ」と、おっしゃいます。私は「これが、なかなか居心地がいいのです」と、お答えしました。すると先生は「本当に、それでいいのか」と、たたみかけられます。ああ、まだ何か私に期待してくださる方がいらっしやるのだ

なあと、私は、しんみりしました。

その会見で、急に里心がつきました。それにしても一旗あげてから、帰りたい。そこで、82年、新潟大学の医学部に入学しました。二五才のときでした。

### ふるさとに内科医院を開業

三二才で医学部を卒業して医師になりました。

私は開業医になろうとは考えていませんでした。定年まで呼吸器内科の医者として病院勤務をしたいと思っていました。

ところが、04年、私の実家のある吉浦で、長く開業医をされた先生が病床について、最期をお悟りになり、私を呼んで医業を引き継いでくれと、おっしゃるのです。

私はお断りしました。しかし先生は、繰り返し、私を枕元に呼んで懇願なさいます。それでも、固辞しました。

ところが、あるとき、抵抗していた緊張の糸が、ぶつかり切れて、思考能力がなくなり、つい「はい、わかりました」などと返事してしまつたのです。それはまるで、きつねにばかされたような出来事でした。し

かも先生は、その日の夜から昏睡になられ、私が、前言を撤回する機会は永遠に奪われてしまったのです。

そんなことで、故郷で開業することになりました。

### よい老後のお手伝い

いまやどこでもそうですが、私の故郷も急速に高齢化が進んでいます。

老人が長寿なため、家族の介護の負担は増えています。

しかしよい老後を迎え、その人らしく人生を終えることはとても大切な事です。それは最新の医療設備や技術によらなくても、いまある設備や技術で可能です。不十分ながら、介護保険もあります。

長く慣れ親しんだ自宅で人生の終末を迎えることが、幸せだと思えます。

私は診療時間の終わった夜も日曜日も、往診の依頼があれば出掛けています。往診は病院ではなかなか出来ません。往診は地域医療に携わっている開業医の大切な仕事です。

皆さんが毎日のように往診するのは大変でしょうとおっしゃって下さいますが、自分の人生のすべてを医

療に捧げているわけではありません。遊ぶ時間も取っています。

ときには夜、大町文庫で読書をしています。至福の時間です。

大町文庫はほぼ毎日、午前9時から午後4時まで開いています。本の貸出はやっていますが、葉がありませんので、読みきれない本には葉を挟んでご自分の名前を記入し、後日また続きの読書において下さい。

各種の学習会や読書会などの会合にもご利用下さい。2階の椅子の座り心地は抜群です。

(文責・大滝)



## 外国語を学ぶ

A市ではじめて韓国語の講座が開催されたので参加した。男性は2名、女性が12名。社会教育のスポーツの講座もそうだが圧倒的に女性が多い。ドラマや韓国旅行が好きな人が多いように見受けられる。熱心に勉強されるので女性の方が上手になるのが早い。私は時間がとれなくて予習や復習ができない状態が続いている。それに習ってもすぐに忘れてしまい、家に帰ると、さてウサギは何というか、ヘビは何というか忘れてしまう。しかし、なんか楽しいのである。

未知との遭遇、未知の文化を知ることの喜びのよなものを感じられる。昨年は新潟大学の市民開放講座でロシア語を学んだ。先生の教え方はまさに反転授業であった。テキストで次回やるところを付属のCDを聞いて完璧に書き取りができるようにという宿題である。講義に出るとまっさきにその宿題である。100点はほとんど取れなかった。でも若い新潟大学の学生は皆完璧であった。

(伊藤英世)